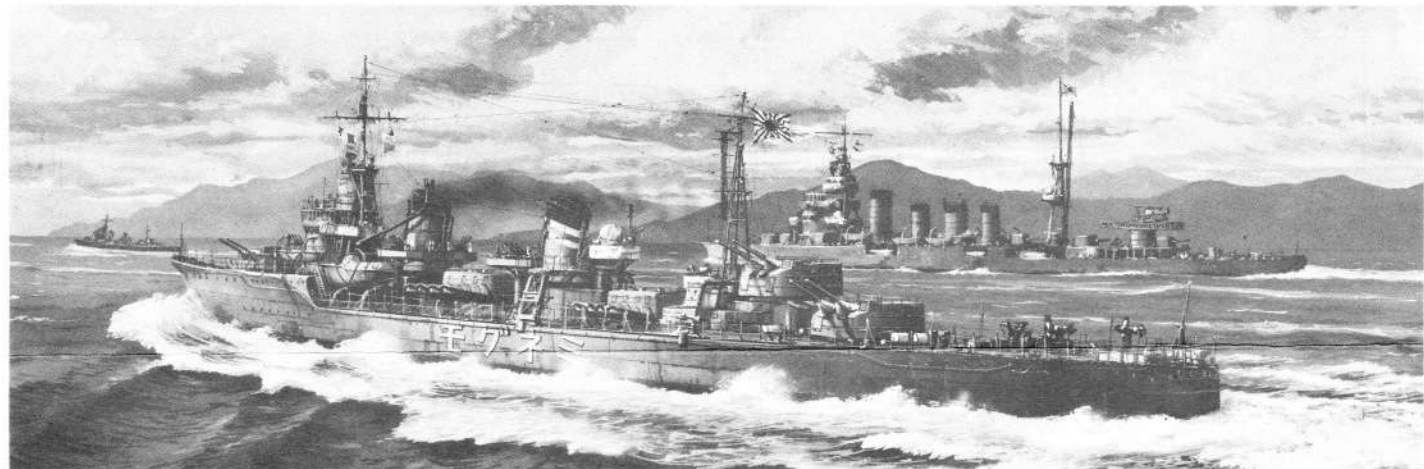


MINEGUMO 峯雲

ウォーターラインシリーズ No.42
日本駆逐艦(みねぐも) 改装後
JAPAN DESTROYER



イラストレーション・上田毅八郎

WATER LINE SERIES

《駆逐艦峯雲について》

日本海軍では明治30年に英国のヤーロー社、とソニークラフト社に駆逐艦を発注しました。明治35年3月には英国両社製の駆逐艦にならい、それぞれの長所を取り入れ春雨型駆逐艦が建造されました。その後明治42年には、1,000トン級の海風、山風の2駆逐艦が建造されました。第一次大戦の勃発後600トン級の樺型2等駆逐艦が10隻建造されました。しかし第一次大戦後は1,200トン以上の一等駆逐艦だけが建造されました。大正15年には特型駆逐艦と称する基準排水量1,800トンの大型駆逐艦が建造されました。軍令部は魚雷発射管61センチ9門、主砲12.7センチ6門、速力37ノットを要求し、耐波性等についても色々要望がありました。この型の設計はきわめて慎重におこなわれ、特に兵装重量は従来艦の7割増しであり、駆逐艦の性質上船型の過大はあくまで避けねばならず、重量の制限については格段の注意がはられました。又乾舷を大きくし、艦の中央部にもフレア

日本の軍艦の塗装は、艦体はいわゆる戦時塗色と言われる少し青みがかった濃い灰色を使っています。これは1903年(明治36年)末、日露戦争をひかえてこの塗装が採用されて以来、大戦終結までそのままです。現在の海上自衛艦の船体色とはほぼ同じです。ただ大戦後期になって航空母艦にかぎって薄緑色を使用しました。時には迷彩塗装も使われましたが、これはねずみ色の濃淡のぬり分

(舷側のそり)をつけ、艦橋は駆逐艦として始めて固定天蓋を設け、機関部の空気取込口を水面上よりなるべく高く又形状を改良しました。砲は砲塔類似の形態を採用し、後に発射管にも橋を設け、荒天時の戦力向上に役だてました。マストも三脚式とし、艦橋下方に士官居住区を設けました。ロンドン条約の結果、特型につづく初春型の設計がおこなわれました。白露型は初春型に次ぐ駆逐艦で最初より復原性能を改正して起工されました。白露型は兵装上、ある程度軍部の要求を満たしましたが、速力、航続力、耐波性、渡波性にとぼしく、高速発揮上に不利な点があり、このため排水量2,000トン程度でより高速を発揮しうる艦が要求されました。このようにして建造されたのが峯雲で、これは朝潮型駆逐艦の一隻で、第2次補充計画により建造された最後の特型駆逐艦です。峯雲は昭和13年4月30日、大阪の藤永田造船所で竣工しました。峯雲は50,000馬力のタービンを搭載し35ノットの高速を得、航続力は18ノットで7,600キロでした。兵装は12.7センチ連装砲3基とし前部一基、後部に背負式に2基配置しました。魚雷発射管は61センチ4連装2基としました。艦橋も流線型のスマートな型となり、艦内電源には交流電源を使用しました。峯雲をはじめとする朝潮型

PAINTING

けでした。吃水線以下の艦底の色は、マルーンと呼ばれる暗い赤色です。甲板は駆逐艦、軽巡が鉄板張りで艦体と同色、重巡は艦によって鉄板張り、リノリウム張り、板張り種類が違いますが、リノリウムと板張りは塗装されず、そのままです。戦艦の甲板、ほとんどの空母の飛行甲板は板張りです。細部では煙突の頂部は黒、後部マストは、上方へは煙突の頂部と同じ高さから9m、下方へ

は昭和12年より14年にわたり10隻完成、太平洋戦争において次いで建造された陽炎型と共にわが国駆逐艦を代表するものです。

峯雲の戦歴は次の通りです。南方作戦においてボルネオ方面攻略作戦に参加。スラバヤ沖海戦(昭和17年2月27日)に参加。ガダルカナル増援輸送作戦(昭和17年9月11日～昭和17年10月19日)に参加、損傷しました。昭和17年10月5日、ソコモン諸島水域において至近弾により大破しました。その後ビラ・スタンモア夜戦(昭和18年3月5日)に参加敵水上部隊の魚雷および砲火を受けて沈没しました。

同型艦は朝潮、大潮、満潮、荒潮、朝雲、山雲、夏雲、峯雲、霞、霰、の10隻です。

《駆逐艦峯雲主要要目》

基準排水量	2,000トン
水線長	115メートル
最大巾	10.3メートル
速力	35ノット
馬力	50,000馬力
主砲及び高角砲	12.7cm×6 及び 25mm×14
魚雷発射管	61cm×8
完成年月日	昭和13年4月30日 藤永田造船所(大阪)

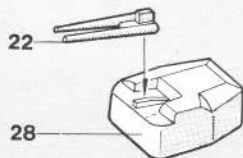
は煙突の黒色部分の下端までと同じ幅で黒く塗装していました。菊の御紋章は金色、砲身基部やカッターなどのキャンパスのカバーは白がよいでしょう。艦尾にひらがなの艦名が真ちゅう板で付いていましたが、戦時には艦体と同色に塗りつぶされました。書き出しは右からですので注意して下さい。開戦からしばらくの間、連合艦隊所属艦は識別のために前マスト、檣楼のトップは白でした。

〈作る前にお読みください〉

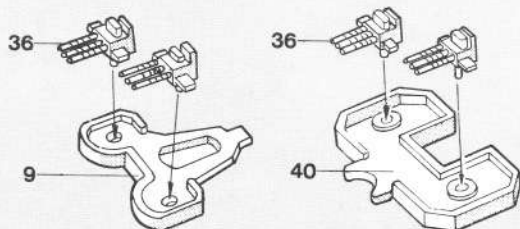
★ランナー（枝）から部品を切りはなす場合必ずニッパーかナイフ等を使って、ていねいに切りはなして下さい。★接着剤は組立てる部品の両方に少しづつ付けて接着して下さい。

1 主砲塔の組み立て

3組、組み立てます。

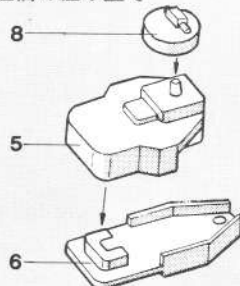
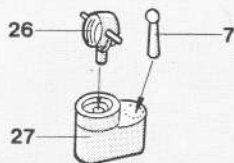


2 機銃塔の組み立て



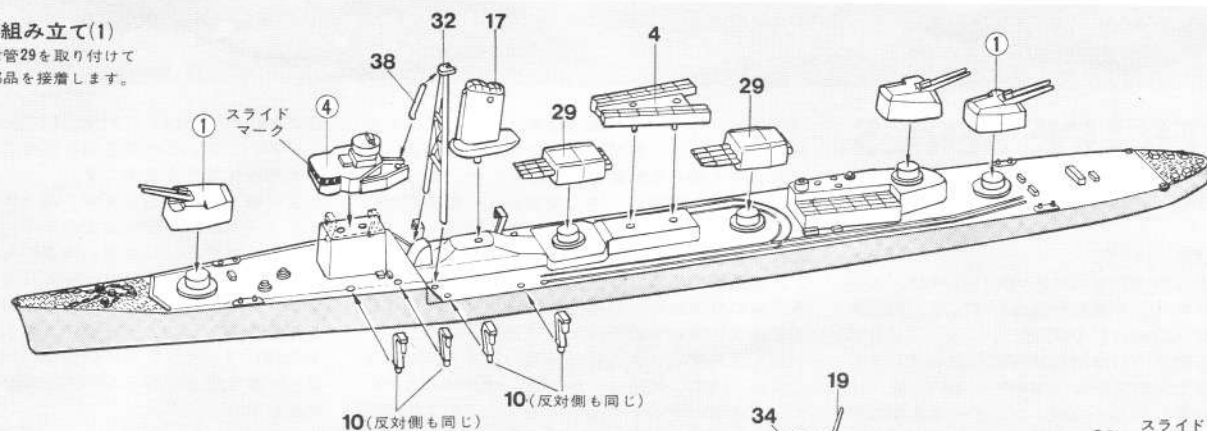
3 探照灯台の組み立て

4 艦橋の組み立て



5 船体の組み立て(1)

魚雷発射管29を取り付けてから各部品を接着します。



6 船体の組み立て(2)

第2煙突デッキ②を取り付けてから第2煙突を接着します。

